様式第2号の2（第58条関係）（裏面）

実効線量による区分			
項　　目		実施者数	有所見者数
5ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
5ミリシーベルトを超え20ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
20ミリシーベルトを超え50ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
50ミリシーベルトを超え100ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
100ミリシーベルトを超え150ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
150ミリシーベルトを超え200ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
200ミリシーベルトを超え250ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
250ミリシーベルを超える者	男	人	人
	女	人	人

眼の水晶体の等価線量による区分			
項　　目		実施者数	有所見者数
90ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
90ミリシーベルトを超え300ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
300ミリシーベルトを超える者	男	人	人
	女	人	人
皮膚の等価線量による区分			
項　　目		実施者数	有所見者数
300ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
300ミリシーベルトを超え1000ミリシーベルト以下の者	男	人	人
	女	人	人
1000ミリシーベルトを超える者	男	人	人
	女	人	人

備　考

1　□□□で表示された枠（以下「記入枠」という。）に記入する文字は、光学的文字読取装置（ＯＣＲ）で直接読み取りを行うので、この用紙は汚したり、穴をあけたり、必要以上に折り曲げたりしないこと。

2　記入すべき事項のない欄又は記入枠は、空欄のままとすること。

3　記入枠の部分は、必ず黒のボールペンを使用し、様式右上に記載された「標準字体」にならって、枠からはみ出さないように大きめのアラビア数字で明瞭に記入すること。

4　「対象年」の欄は、報告対象とした健康診断の実施年を記入すること。

5　健診年月日は、報告日に最も近い健診年月日を記入すること。

6　「対象年」の欄の（報告　　回目）は、当該年の何回目の報告かを記入すること。

7　「事業の種類」の欄は、日本標準産業分類の中分類によって記入すること。

8　「健康診断実施機関の名称」及び「健康診断実施機関の所在地」の欄は、健康診断を実施した機関が２以上あるときは、その各々について記入すること。

9　「在籍労働者数」、「緊急作業従事労働者数」及び「実施者数」の欄は、健診年月日現在の人数を記入すること。なお、この場合、「在籍労働者数」は常時使用する労働者数を、「緊急作業従事労働者数」は緊急作業に従事した労働者数をそれぞれ記入すること。

10　「有所見者数」の欄は、各健康診断項目の有所見者の合計ではなく、健康診断項目のいずれかが有所見であった者の人数を記入すること。

11　「作業の場所」の欄は、報告対象とした労働者が従事した施設名を記入すること。

12　線量による区分は、今回の健康診断を行った日の属する月の前月一月間に受けた線量によって行うこと。

13　「産業医の氏名」の欄及び「事業者職氏名」の欄は、氏名を記入し、押印することに代えて、署名することができること。

様式第三号から様式第五号までを次のように改める。

様式第３号（第59条の２関係）

指定緊急作業等従事者等に係る線量等管理実施状況報告書

フリガナ		生年月日	年　月　日	個人番号	
氏　名		性　別	男　・　女	指定緊急作業等従事以前の累積被ばく線量	
住　所		電話　（　）			
指定緊急作業等時の所属事業場の名称					
指定緊急作業等時の所属事業場の所在地		電話　（　）			
現在の所属事業場の名称					
現在の所属事業場の所在地		電話　（　）			
対象期間		年　月分		通常作業・緊急作業の区別	通常作業・緊急作業
対象月分累積線量	外部被ばく実効線量	(mSv)	作業の場所		
	眼の水晶体の等価線量	(mSv)			
	皮膚の等価線量	(mSv)			
内部被ばく測定結果	預託線量	(mSv)			
	測定日				
	摂取日				
	主要核種ごとの測定値	核種		作業の内容	
		測定値	(Bq)		
		核種			
		測定値	(Bq)		